

D講座 復興支援のかたち 定員80名程度

秋田が東日本大震災の被災地に対して行っている復興支援の実態を知り、いま自分たちに何ができるかを考える講座です。

D-1	7月20日(土)	10:00～11:30	東日本大震災の水産被害と水産復興支援 ～日本海側からのヒラメ・アユ種苗など～	秋田県水産振興センター 所長 中村彰男氏
D-2	8月3日(土)	10:00～11:30	復興支援としての学校教育 ～秋田で何ができるか～	秋田大学教育文化学部 准教授 紺野祐氏
D-3	8月17日(土)	10:00～11:30	災害と歯科 ～身元確認への応用～	秋田大学大学院医学系研究科法医学講座 助教 大谷真紀氏
D-4	9月7日(土)	10:00～11:30	農業の復興に向けて ～秋田県の取り組みについて～	秋田県農林政策課 課長 熊谷譲氏
D-5	9月14日(土)	10:00～11:30	震災復興への支援とは ～秋田の大学生ボランティアの活躍～	秋田県立大学総合科学教育研究センター 准教授 小松田儀貞氏

「がんばろう東北」をテーマに全5回で構成した講座です。様々な分野から災害への対策や取り組みについて考え、復興支援の在り方を見直すきっかけにしてもらうための講座でした。

ここでは、第1回の講座の様子について報告します。

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震。その地震による甚大な災害「東日本大震災」の復興を支援するため、秋田の人々や組織が何をしてきたのか、そして私たちに何ができるかについて学ぶ講座です。

第1回は7月20日（土）、秋田県水産振興センターの中村彰男所長を講師に、「東日本大震災の水産被害と水産復興支援～日本海側からのヒラメ・アユ種苗など～」と題しておこなわれました。

そのなかで中村所長は被害の状況をスライドで説明しながら「日本海は太平洋よりも海温が高いので、ヒラメが成長するスピードははやい。そのために短期間で太平洋側に稚魚を送ることができる」「支援事業は今年度までの計画であるが、次年度以降も積極的に続けていきたい」と説明されました。

受講者からは「全く未知の水産業、養殖業についての知識を得た」「被災地域に対する秋田県の復興支援に感動した」といった感想が寄せられました。



被災地の惨状について語る中村所長



ヒラメの種苗育成をスライドで説明